

奇想黙示劇 「 宮沢賢治の知恵の夢 」 ～少年と「一粒の種」～

実 施 概 要

- タイトル : 奇想黙示劇 「 宮沢賢治の知恵の夢 」
- 主 催 : 経済産業省、財団法人2005年日本国際博覧会協会
- 実施日時 : 2005年8月30日(火)、8月31日(水)

一の図	12:00 ~ 12:20
二の図	13:00 ~ 13:20
三の図	14:00 ~ 14:20
四の図	15:00 ~ 15:20
- 実施場所 : 愛・地球博 長久手会場 長久手日本館前 日本広場内 特設スペース
- 出演者 : 演劇実験室 万有引力の俳優陣
- 制作スタッフ :
 - 製作プロデューサー / 北村 明子 (シスカンパニー 代表)
(瀬戸日本館 群読叙事詩劇「一粒の種」プロデューサー)
 - 演出・製作・構成 / J・A・シーザー (演劇実験室 万有引力 主宰)
(瀬戸日本館 群読叙事詩劇「一粒の種」作・演出・音楽・美術)
 - 総合プロデューサー / 天野 孝之 (日本国際博覧会協会)
(瀬戸日本館 群読叙事詩劇「一粒の種」総合プロデューサー)
- 展開ストーリー: 瀬戸日本館 群読叙事詩劇「一粒の種」構成の中心を担っている宮沢賢治のイメージや世界観などをパントマイムを中心に表現。1人の少年を主人公に 一の図 から 四の図 までの4部構成で奇想黙示劇を展開する。

2005年、夏休み、愛・地球博 日本広場の正午。広場には、朱赤と漆黒のテントが置かれている。正午の時報とともに 一の図 が始まる。すべてのテントが突然開き、役者たちが忽然と姿を現す。彼らは決して言葉はしゃべらない。パントマイムや軽やかな楽器の音色だけで、日本広場全体を劇場化し、縦横無尽に動き回る。広場で観覧している方々、また通行する方々は、あたかも劇場の中にいる出演者の1人のようである。20分後、役者たちの姿がいつのまにか消えてしまう。そこで行われている出来事は、まるで真夏の夢のようである。
- 観覧方法 : 日本広場内 特設スペースにて自由観覧

2005年日本国際博覧会 政府出展事業「瀬戸日本館」

群読 叙事詩劇「一粒の種」 概要



- タイトル : 瀬戸日本館 群読 叙事詩劇「一粒の種」 ～ 響きあう知恵の記憶、わたしがはじまる ～
- 実施日程 : 2005年3月25日(金) ～ 2005年9月25日(日)
- 実施場所 : 愛・地球博 瀬戸日本館 2階 円形シアター
- 実施詳細 : ・1回の上演は約15分間 / ・1日に10数回上演 / ・会期中185日間毎日ライブ上演
- 製作スタッフ :

○ 作・演出・音楽・美術 / J・A・シーザー	○ 舞台製作プロデューサー / 北村 明子
○ 独楽デザイン / 小竹 信節	○ 照明 / 小川 幾雄
○ 音響 / 尾崎 弘征	○ 映像 / 奥 秀太郎
○ 衣装 / 前田 文子	○ 振付 / 謝 珠栄
- 出演キャスト : 男女 計 66名 (男36名、女30名)
2グループに分かれ(1グループ33名)、交替制で上演します。
- 出演キャスト 年齢 : 20才～34才 平均年齢24.5才
- 出演キャスト 出身地 : 愛知 47名、岐阜 6名、東京 5名、大阪 4名、兵庫 2名、静岡 2名
- キャストの配役(1グループ) : 少年4名、少女4名、群読 23名、風神・雷神 各1名
- 舞台(中心部のみ)大きさ : 17m² / シアター全体のスペース : 320m²

群読叙事詩劇「一粒の種」は、昔の人々の知恵やこころを伝える教えの言葉、祭礼の掛け声、童謡、童話などを集めてセリフで表現する群読という手法を用いた臨場感あふれる演劇によって、自然と共に生きる人々の物語を展開します。特徴は、群読すなわち、ギリシア悲劇のコロス、能・狂言の地謡に見られる「唱和により人の感情を高めて表現する演劇手法」を取り入れている点です。

会場の円形シアターは、中央ステージを囲むように観客席が配置され、少年、少女、風神、雷神そして群読の配役ら33名(1グループ)が、相撲の土俵や神輿などをイメージしてつくられた円形シアターの中央ステージを囲い込みます。

そして、約15分間の上演の中で、祭りのシーンをはじめ、香具師(やし)の口上シーン、三々七拍子のシーン、雨二モマケズの群読シーンなどが次々とテンポよく繰り広げられます。その空間は、言葉、音が縦横無尽に飛び交い、映像、照明がそれに協和する劇的空間です。全日程の舞台公演をライブで展開します。

コロス : ギリシア悲劇の演出のひとつで主人公の心情などを集団が合唱のカタチで唱和する

地謡 : 能のひとつで第三者の客観的立場でその出来事や風景、心情を謡う斉唱団